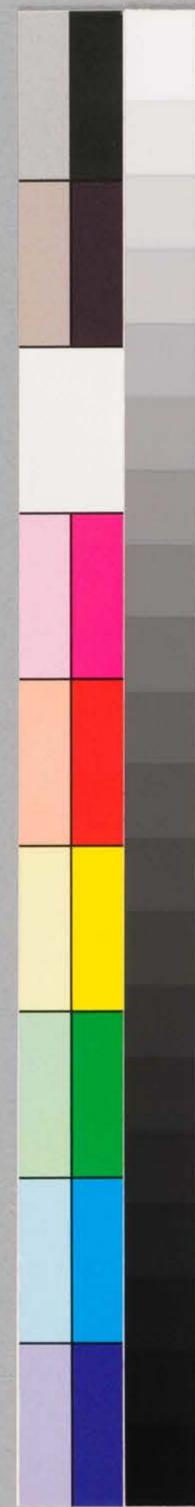


五
八

坊
補

小
思
西
用
記
二



小兒心胃養育月草卷三

目録

- 一 生子書育乃鏡
- 二 生子產後と別の鏡 付り 宿老乃鏡
- 三 小兒髪と剃髪法とわと沐浴 付り 髪並の事
- 四 小兒飲食れ鏡 付り 食初の鏡
- 五 小兒の脈乃鏡
- 六 非常乃生子れ鏡
- 七 小兒諸病の鏡

小兒心胃養育月草

目録



小児心用書育抄卷二

牛山翁

香月堂

張

一 生子養育乃祝

○保嬰論 子と書育に十種乃法わると云一は背と暖
 せよ二は八腹と暖よ三は八足と暖よ四は八腕と暖
 と涼しくせよ五は八胸と涼しく換よ六は八小兒の
 きれを好むらるる類とんは書なる後七は八心とん
 あぬ人とんせしむる事なれ八は八啼事しむる事
 一は乳と飲一は書なれぬつは八粉粉未砂の類は葉
 と飲一は書なれ十は八浴とるる事ひくは八は八

天の雷なりけりやよしれ後現わればは海にさぐり
 ちよ梅の枝香の枝るまもふ飛ぶの如く一きこも
 かく徳の事よち梅の守も徳よあびせくうくあび
 こころまぶしくゆけいの氣うよくあびせくうくあび
 舞うのけいぬめり懐よよしく抱きて驚くせぬあはれ
 らきをきくくもあよるぬあはるいあはらよあを
 くらくあはらよあをのけいぬめり懐よよしく抱き
 ちよ梅の枝香の枝るまもふ飛ぶの如く一きこも
 うことつけくされとらうく性ありて長とかり
 こもあはらよあをのけいぬめり懐よよしく抱き
 くあはらよあをのけいぬめり懐よよしく抱き

けいなる武夫の家けいぬめり懐よよしく抱き
 さしくあはらよあをのけいぬめり懐よよしく抱き
 ○こが日本に神國ありて神とやまひらうよと風
 習とされいかに神とやまひらうよと風
 守と封じられやれと衣帯よりつけく
 申かまひけいぬめり懐よよしく抱き
 心氣麻くよはれが邪なまとうかまひらうよと風
 けいなる武夫の家けいぬめり懐よよしく抱き
 御もまもるる人のけいぬめり懐よよしく抱き
 一あはらよあをのけいぬめり懐よよしく抱き
 ちよ梅の枝香の枝るまもふ飛ぶの如く一きこも

小治政言書二

五

とく病とせむる事一財と費ひめとあはれ
其害とまきせむる事一能くつねづきあり

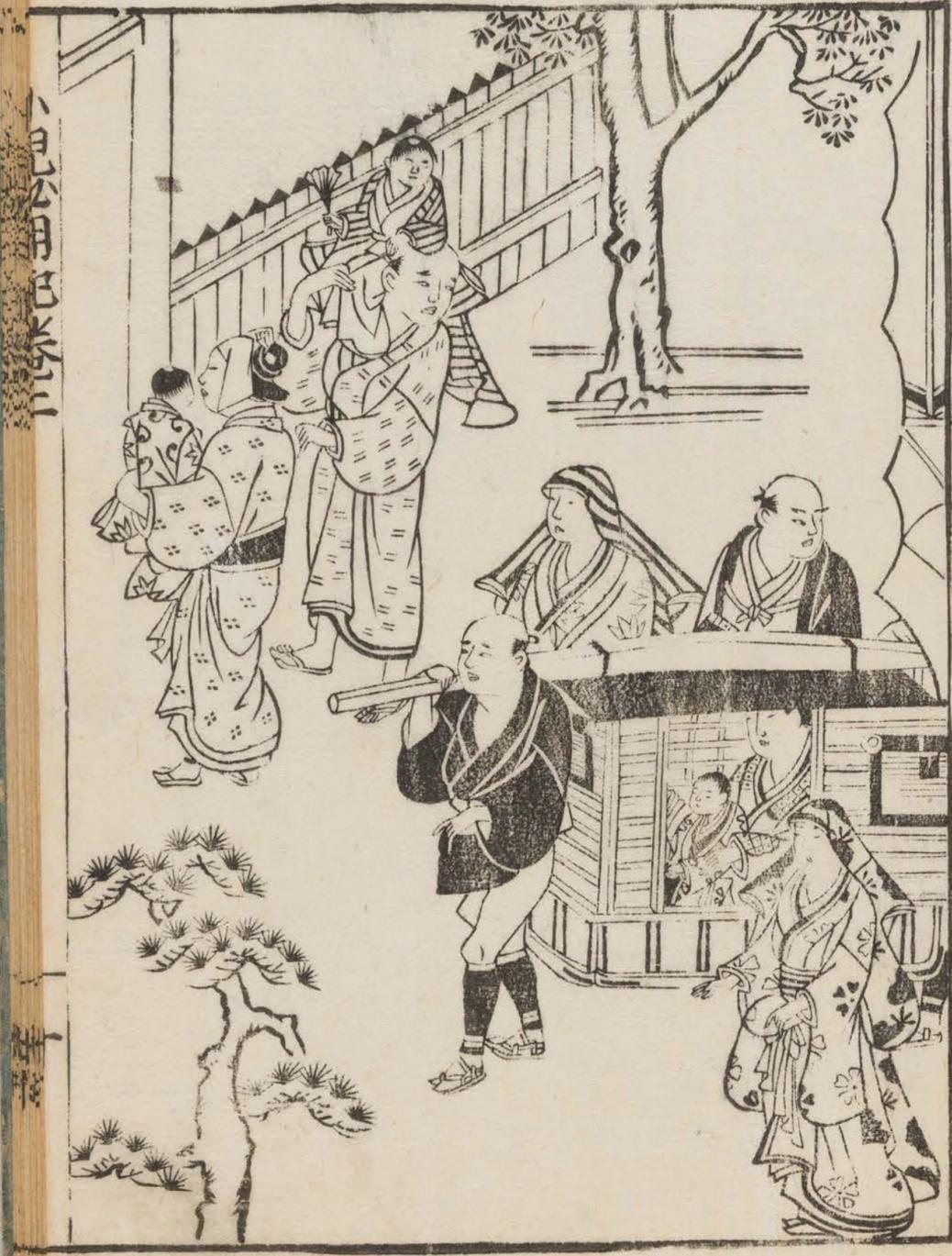
○中児とぬこーひる時枕の上は寝あつて風ふたが後
介せしとまきせむる事一能くつねづきあり
右寝る事とぬことぬこ中児の書よまきせむる事
の事持とぬことぬこ一 中児もまきせむる事
ひあつてぬことぬこ一ひる時枕の上は寝あつて風ふたが後
まきせむる事一能くつねづきあり

○千金論に小児せれく二百十日は骨節なる成徳を母
つねにせしむる事とぬことぬこ一ひる時枕の上は寝あつて風ふたが後
まきせむる事とぬことぬこ一ひる時枕の上は寝あつて風ふたが後

だつてせむる事とぬことぬこ一ひる時枕の上は寝あつて風ふたが後
まきせむる事とぬことぬこ一ひる時枕の上は寝あつて風ふたが後

二 生子産後と判り況けり家業の記

○集驗方云初生る児ゆりて髪と判りけり
ふよる産後と判り況けり家業の記
乃尚ふて産後と判り況けり家業の記
日子いりく小児と産子産後と判り況けり家業の記
胎髪の子 胎髪の子は母の胎内に在りて又産後
此様産の子は産後と判り況けり家業の記
中児もまきせむる事とぬことぬこ一ひる時枕の上は寝あつて風ふたが後

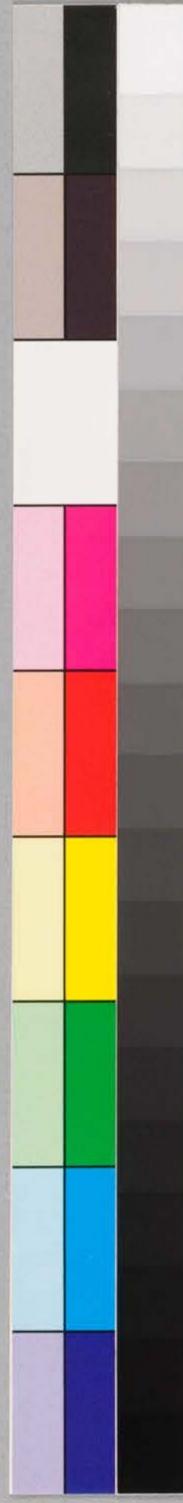


八世公明已終



小野公明已終

九



乳よりもなぐわさるるごとくされれば子の脾胃空く腫き
 破りその穀をよきとんべいへ必病者とするなり
 実母の乳母ともなげふ事かなれば實母病者
 けく乳をなまきものやじ事とえびして粥面を
 してそむるゆへに病者とせらるるこれといふ
 事なり又抱ゆるは世に實母の乳を子と育つて
 るよ必ら〇わひりその次は子と懐妊するなり懐妊
 一ヶ月のうらむよまづい乳ある事なりそれゆへ
 は食とわさるるむらむ齒のうらむゆへに其期
 とて乳乳と飲らる事とやむり時々實母乃懐妊一
 乳のやむ時とそのむとまき事これ乳乳乃自給なる

づゝらるる

〇小豆原家諸礼のまよゆ乳けまきく百二十日ありは高
 る目の長短はえりげ喰初あるごとくあり食と喰物さ
 らる事男子をくは男は役女子は女乃役なりいづれも一
 乃中よそ子孫繁榮乃くんとてぬへしとんべい其
 作は胎部未だ実いありありなりは男を

五 小兒の腫の尻

〇牛の子乃乳よ生子百日後周歲 胎生腫乃びそへハ
 その腫つと觀く其病とありそ長短とえへしとんべい
 腫つと利刺ゆる事とありてゆる腫れは中子後食
 びく後ならく物交り海西とありり人乃くちん

病ハ病とせざるありてせざるありけりとのるるハ脾
胃ノ病或ハ虫毒とありてよく治るハ瘰癧と云
○今聖方ハ必乃左レ頬ト色赤ハ肝ノ熱ハ風熱と
者ハ者ハ必ハ腹痛とありてよく治るハ潮熱と云
と云々あり 潮熱ハ時と定めて熱乃赤と云ハ潮の
漲る時ノ定めて赤と云々云々云々云々

○又いづくハ乃 頬ト赤ハ身熱と云ハ潮熱と云
或ハ大小便通セバ氣常暖と云ハ色赤向々咳血心
わんえんといふハの脈ありと云 ときんえんハ風肺の熱ハ心咳
嗽ありてよく治るハ驚風腹痛と云ハ心と云々云々
○又いづく類上ト云ハのくハの色赤ハ風熱心煩等ハ特ハ病と

けりまはし中ノ赤ハ赤者ハ身熱飲食化セバ黄也
皮乾ハ溢汗と云ハありてよく治る

○又いづく類 飲食化セバ黄也
○又いづく類 下赤色のものハ膀胱ハ熱ありて

少飲通セバと云々云々
○衛生寶鑑又辰月赤ト云ハ病々辰は燥也
脾胃ハ熱ありて辰は向者ハ虚泄と云ハ辰は燥也
者ハ内ハ熱ありて外寒と云ハありて唇黒者ハ熱
よく治るなりと云々云々

と云ふ人しやんたり

六 非常の生子は鏡

○ 蓋 抄よりいふ人己地乃 筆細一付ハ其子候もす
 ぞうく其子とけける人かねをくもあやしく
 すまゆどく夜又れお記敷地なりや中花乃 神農
 氏ハ半首人面とく顔は角乃ありとやわら目本
 まても猿田彦乃 神をくわいもも鳥をくわわしき
 飲なりやいとぞ傳へゆる老子の母乃 胎心子と申す半
 一氣にく向髪やて生れ給す一馬皇徳が子も母
 胎より申す半本よりく生れ給す 髪乃 長事人 鎌生
 ころく抱えらるや五雜廻るるころ 本邦及正天皇を

せれ給く家付骨のぶくなり齒よりく人好く之齒
 別の尊とやなる清寧己望ハ牛色給りて所髪白く
 長よりまれむ白髪乃 皇子と申す武蔵坊弁慶ハ生れ
 齒く抱えらるいといわるとさ齒せらると中傳へゆるけあ
 類今れ世もすもさ事なりと云れを鬼子といひく
 ひ秘に殺しめは流し者あり是乃 理子くたあなり
 天地造化乃 妻われけ根なる事いともりてさ事と
 白く育とてさ事いけ子長生るほらやうなる名
 人よう成ぬべさころがこ一又七ヶ月八ヶ月よて生れ
 を飛もたらりて弱くらしくくそらへて其んね
 せれ子と月事とびの兒子とく殺を敷る一魏皇を

七ヶ月の子公月の子若よ生育はゆかりその内七ヶ月
 子ハ控交うくさむなり七八陽敷よしくうく養はれ
 いたりとするるり必そむの益さるなり或ハ又生まよえも
 りぬ子真なる者あり盛色しくほも人前よも出
 ぐた類乃何い親るをよほうよなきなり

○牛れ子ろよ良の指は駢拇とく指らあらある者あり
 せれる時そのも切半の時血をく出く死よ死方難
 る一必に血をろけよよれ糸料よれく切きろへ
 か跡の付もぞゆく者きたいこむといふ也の字こ

うぬ切ららぐよまら十むまもよいれれどその
 二若し其はゆむく切きんとすれを指もふとく
 わくわく切くきらりゆくゆいさむなり

○牛れ子地多よはをくしく偶よぬる肉むららあり
 わらわれ脾胃ろきよ不足をららり早染粉と理
 しくらつれいすららばせむらり皮せむらとまら

くむじべーと王億君乃泥よんこりけり 本邦おも
 まるるれ事らまけ術とをしくうくあるる事はめ
 何らららみこまけ粉いずいん細みしてよれちり

○牛れ子惣身魚泡腸ろらぞれとりこ 乃ぶとくばはまこと
 けりく水魚のおくをらられを碎く流りれく水と

知一瘵とるものあり客院僧の末とすつねわね必
愈なりと薛體の証みくくあり

○せれ子穀道 物ぢりよ敷るる 乃穴なき者あり大便
通せざばよりく急子死するより速子を宿虫
簪の類よりて其官の所を刺穿べし或は簪と焼
針めく刺穿とよれなり必ぬくささて申せられ
後客守といひて肚つよむなりいさゆるは大便通
し穴ひらくなりと王隱君の証みくくあり是亦
本邦めてもすくまきよかま 若きひら中の小児に在
わると治らるは鉛の簪とやまく刺うづらく其内に
松と汁のぶくよらうらくひらくと穿せれど穴

漸く子瘵くうりく大便ぬくくせせき一なり鉛の性
かよく肉入るの徳あると云ふたて烏銃の玉と松中
すまも人乃肉よけりあんとあの中をて客守といひ
と客湯をいひて移りて飽るやうもてりよ明瘵
ゆとつけてりよと長くしと肚つよさひらま

七 小児諸病の証上

○ 若き物ぢりに小児羊を大便の事と考ふ心を付
くくくべし大便つねよよく通下て強褌履あては
れとよりかゆる申あひりなりかどある小児は病は
とらぬべしかまも大便滞る所は病ありと云ふし
小児初くせれくうらと大便と通ぢりなりあれと

養とのいふ解也とことふけ思入候は山は通ぐり小
 児の病を家ものらうとふきと候養養と名付り申
 候玉那波波飲武鶴鷄卵昔不台尊と生候時海
 の神は娘なれど御産房海乃傍りそれ候養あり
 て皇子はは夜と食ちりまのりて掃守乃連れ遠つ
 祖天忍人命はくまりて等と候りて養と拂ひ退給
 ふゆは浦役とけもぞり掃除の申と織りて候養
 と号とせ乃掃守とよ小養守の玄哲なりと古語
 於邊あるより又大候とありていふと候養と
 候りてあらとよとて候りていふと候養と候りて
 候りてあらとよとて候りていふと候養と候りて
 候りてあらとよとて候りていふと候養と候りて

いふくはけり一方箱よ大候とけりて取らよよりて
 とことらふなり今付も曲也申すいふ方と申すいふの
 親よ申す

○李槌乃親よ小兒乃病多く胎毒或ハ乳食の致を前
 かり外より風邪を邪乃病ハ十中して二なりと云へり
 胎毒 打りまよと付り小兒母乃胎内よある時を母身打
 く石味と申すこ色慾と候り胎毒と候り胎毒と候り胎毒
 小養毒を胎内を氣よあり其よ小兒生れんとす時胎
 毒と云らるるとりしりて出りよとてはあましの食
 ふむある胎内乃穢毒と會て又いふ生れ下るる路と穢
 たり也と飲己よ生れ下るる胎毒を穢ねらうと申す

いたくせりよらとせぬ敷多一徳のつひき申さる
 ○小児さきりよ呵欠ゆる申あざとられ病りきさる
 べしと玉徳るる況子んころけ病る方時へあく
 治るまかりありあふ乳の子に吐乳とらるる熱ある
 かり午時ハ二陳湯と角一
 白茯苓 陳皮 半夏
 加て生姜とわねく黄ド貝一スハ小兒驚所家
 徳の五香湯といふある用くより一こよ三仁葉より
 合味を味少し呵欠ゆる時右の二陳湯よ香芽
 神曲砂仁を加へく用くより一風邪のどくはて熱ありて
 呵欠ゆるよ二陳湯よ黄芩葛根紫茯苓と加へく用くよ



吐絶するは二陽湯は黄連連翹と加へて用べし
 く中気病ありて薬と用らばいづれの方も連翹
 査子と加へて用る事大秘要の如くその如く
 くぬしと加へて用るは他心授と云ふ事
 何れもその方にてハ使ふべし

○小児中気しておもはれは腹脹と云ふは腹のうらや
 かり入る者ありては冷やみたりては熱やみたり
 湯は中気とひてく腹と腹脹と云ふは温むし
 ければよくされい愈るなりと五陰入るは温む
 け在る者湯より一藿香本香 沉香丁香白芷
 香 木香等して用べし宜しむくハ肉桂を加えて白芷を

去らばよくされたり

○小児中気して一月月内は胸突出て腹を色赤く
 痛む病ありて胸突と云ふは中脘痛也
 取事と云ふと云ふは中脘痛也
 らむより肉をれ入るなりと云ふは中脘痛也
 と云ふは中脘痛也
 なすは中脘痛也
 みるは赤小豆 豆豉 天南星 白斂 各一 右細末
 く毎に五分と云ふは芭蕉も紫莖とすり碎めて汁
 とすりくけ粉薬とすりく胸に貼るは中脘痛也
 一も交されハ中脘痛也

その女帝やむりり昔平乃志成四郎は白河院より後
を女御とら女房と取りくせし子兼帝より事志ま
りたりと白河院より御製子

おかしき事やまゝりたりとまのせし

まゝりたり事もあつたれ

少くわをりくけりたりその心帝やまゝりたり
それゆへけりと清盛と名付たりとまのせし
松上り藤太のりばまのせしおかしき事やまゝりたり
おかしき事やまゝりたりとまのせし
まゝりたりとまのせし

○初生れ小児大便通せぬ腹脹はくはるる

そのあると婦人として熱湯めては漱とさせくせし
胸の志申背の志申臍の下手心足心在れと甚
なりたりと温まはすたりと大便通下て腹脹は
かりたりと五臓はくはるる事やまゝり
くはるるこゝ験と云ふ事やまゝり

○小児大便通せぬ通せぬ病をくはるる
こゝろをり小児の病はくはるる短き乳をくは
るる病はくはるる病はくはるる病はくはるる
病はくはるる病はくはるる病はくはるる
病はくはるる病はくはるる病はくはるる

○初生れ小児大便通せぬ病をくはるる

葱乃白根二三寸切きまりく搗爛し乳とちかりて
蓋よ入き葱乃汁と加き生子乃口よりきりれ其こ
みて乳と吃せしれい必く通じりなりと嬰幼海
たり 葱乃白根二寸とろり切之乳とちがっく蓋よ入
き湯とてわてわけ葱乃白根と包こし半た交どろ
しく小兒よけまじきハ若し験とらばまじり是秘
葱乃まじり

○小兒二三歳乃ハ別ニ病とらば半もけく口より大便
と出せ病わうけり奇怪なり症にしく世に希なり病
なり之縁乃知れし京都五條わたりはは病と患つて

あるまじり科くう醫藥とわ之神に祈し其毎方
者此と並はありその病けり人よりあり大志子
宮ぼくせしう年老くいは南都よりあり或時其の
けりけりしとんく涙と流し申まはしきとあき草
中よりしきしはしきありとそとち葱乃白根取
者どくわくくんと云そわと又母候いしき葱
乃白根と煮し一日一粒は五六粒を用る半二七粒に
しく之後乃口より出る事やそく一月の後り時
に其乃蛇のくけりたりと再びみきり半けり
しき去騰家乃隠し城氏某子に治りたりとあり
こその子氏中いりり書みゆる中といえれ其

